

学校推薦型選抜 解答例

令和5年度

小論文 (一枚目)

問一

【出題の意図・採点の眼目】

バトラー後藤裕子『デジタルで変わる子どもたち 学習・言語能力の現在と未来』（ちくま新書 二〇二一年）の一説を読ませ、その内容を適切にまとめさせる問題である。問題文では、「言語習得・言語使用の本質」について「身体化した思考」「社会性」「感情・情緒の伝達」の三点について、具体的な事例をあげて論じている。「身体化した思考」については、非言語行動がコミュニケーションや学習に重要な役割を果たしたことを述べている。「社会性」については、言語活動の根幹は、自分を含めた環境との関係性の中で意味づける活動であり、他者との相互交渉が不可欠であると述べている。「感情・情緒の伝達」については、感情・情緒の伝達や共感によって言語能力が伸びることを言及している。これらの三つの論点を的確に把握し、バランス良く記述しているかが採点の眼目となる。本文の内容を正確に理解しているか、文章を論理的に組み立てられているか、的確な語句や表現が用いられているか、誤字脱字がないか、原稿用紙の使い方が的確か、などが採点の主なポイントである。

問二

【出題の意図・採点の眼目】

問二では、自身の考えを自由に論述する問題であるが、解答にあたっては問題文の論旨を踏まえ、自身の意見を述べることを課している。問題文では、デジタルテクノロジーを使い、人間の言語使用の本質にそうするために、国語科の授業がどのようなものであるべきかを具体的な例を挙げて述べることを求めている。授業の具体事例を論じる上で、問一で問うた「言語習得・言語使用の本質」である「身体化した思考」「社会性」「感情・情緒の伝達」を踏まえていることが望ましい。さらに、線部②の文章の後半に書かれている「橋渡し」としての教師の役割や、論理・分析思考から逃げないようにすること、「人間の直接介入」として子どもと対話することなどに言及できていると良い。小・中・高で扱う具体的な教材名や、自身が経験したデジタルツールを活用した授業について具体的に論じているかも、問いたい。回答内容の妥当性の他、適切な表現力、論理的な文章構成等が採点のポイントとなる。用字・用語の正確さにも十分留意したい。